

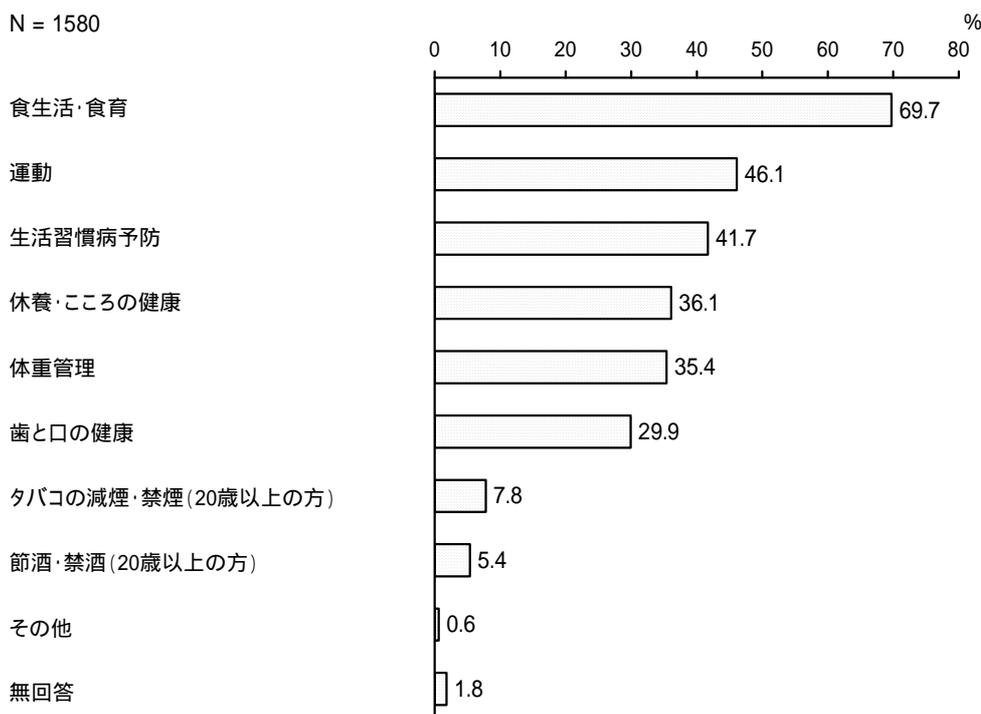
4 保健・医療・福祉

4 - 1 健康づくりで関心のあること

「食生活・食育」が69.7%

問 18 ふだんの健康づくりで、あなたの関心のあることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(はいいくつでも)

図 4 - 1 - 1



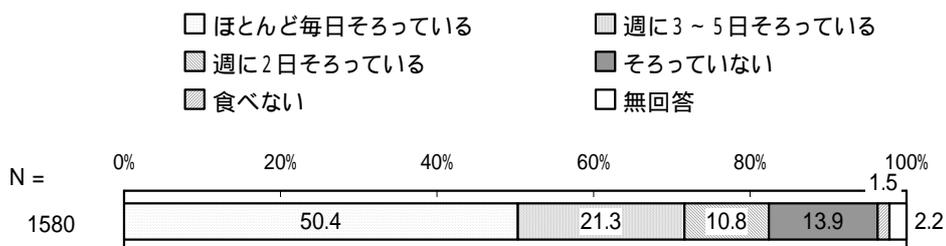
健康づくりで関心のあることをたずねたところ、「食生活・食育」(69.7%)が約70%で最も多くなっている。以下、「運動」(46.1%)、「生活習慣病予防」(41.7%)、「休養・こころの健康」(36.1%)、「体重管理」(35.4%)、「歯と口の健康」(29.9%)などの順となっている。(図4-1-1)

4 - 2 主食、主菜、副菜のそろった昼食の頻度

「ほとんど毎日そろっている」が50.4%

問 19 あなたの昼食は、主食、主菜、副菜がどのくらいの頻度でそろっていますか。
(は1つ)

図 4 - 2 - 1



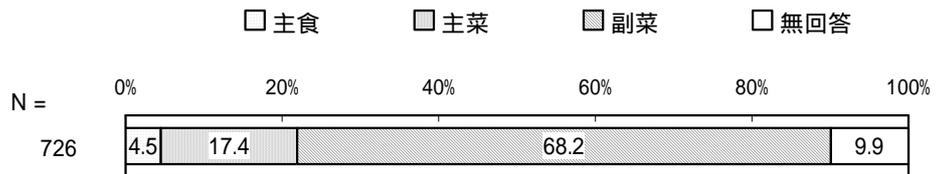
主食、主菜、副菜のそろった昼食の頻度をたずねたところ、「ほとんど毎日そろっている」(50.4%)が約50%と最も多くなっている。以下、「週に3~5日そろっている」(21.3%)、「そろっていない」(13.9%)、「週に2日そろっている」(10.8%)、「食べない」(1.5%)の順となっている。(図4-2-1)

4 - 3 主食、主菜、副菜で食べていないもの

「副菜」が68.2%

- 1 で2.~4.と答えた方におたずねします。「主食・主菜・副菜」のうち、食べていないものはどれですか。(は1つ)

図4 - 3 - 1



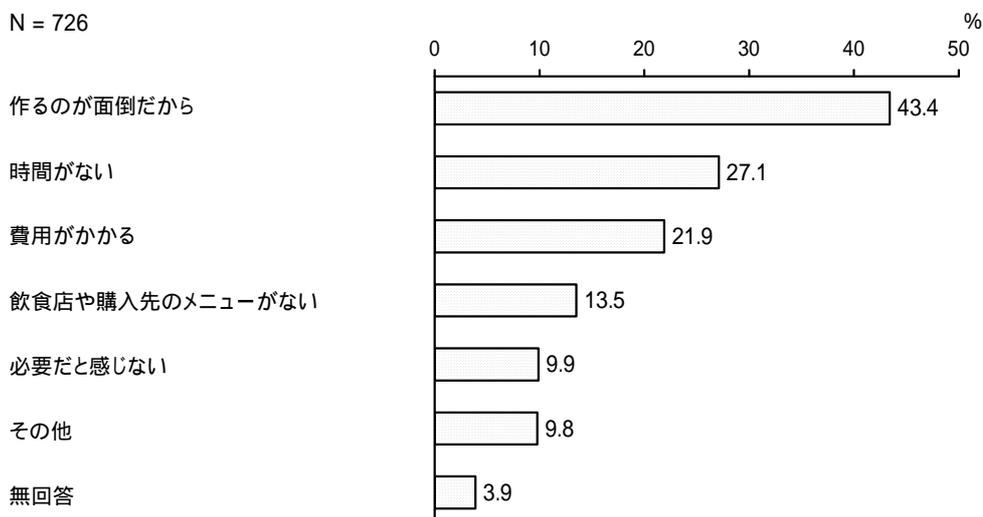
問19 で「週に3~5日そろっている」「週に2日そろっている」「そろっていない」と答えた昼食に主食・主菜・副菜がそろっていない日がある人(726人)に食べていないものをたずねたところ、「副菜」(68.2%)が70%近くと最も多くなっている。以下、「主菜」(17.4%)、「主食」(4.5%)の順となっている。(図4 - 3 - 1)

4 - 4 主食、主菜、副菜がそろわない理由

「作るのが面倒だから」が43.4%

- 2 また、「主食・主菜・副菜」がそろわない理由は何ですか。(はいいくつでも)

図4 - 4 - 1



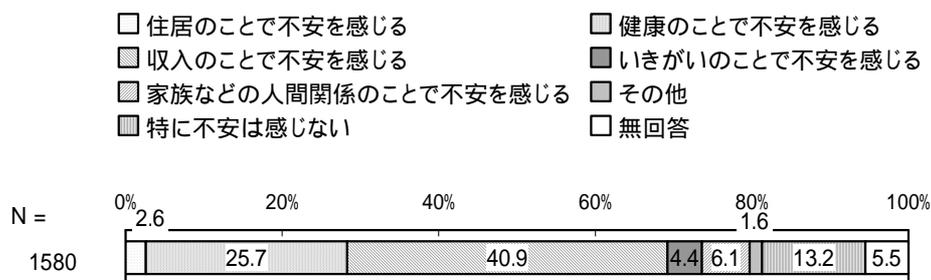
問19で「週に3～5日そろっている」「週に2日そろっている」「そろっていない」と答えた昼食に主食・主菜・副菜がそろっていない日がある人(726人)に主食・主菜・副菜がそろわない理由をたずねたところ、「作るのが面倒だから」(43.4%)が40%を超えて最も多くなっている。以下、「時間がない」(27.1%)、「費用がかかる」(21.9%)、「飲食店や購入先のメニューがない」(13.5%)、「必要だと感じない」(9.9%)の順となっている。(図4 - 4 - 1)

4 - 5 老後の生活への不安

「収入のことで不安を感じる」が40.9%

問 20 あなたは、老後の生活について不安を感じますか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。(は1つ)

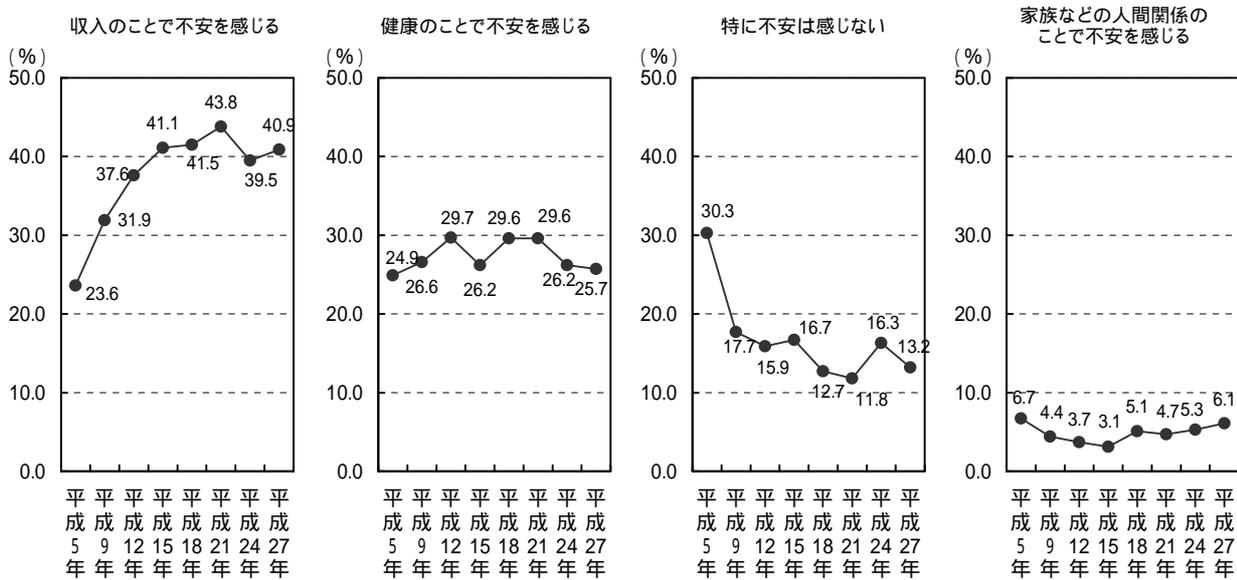
図 4 - 5 - 1



老後の生活への不安をたずねたところ、「収入のことで不安を感じる」(40.9%)が最も多く、40%近くとなっている。以下、「健康のことで不安を感じる」(25.7%)、「家族などの人間関係のことで不安を感じる」(6.1%)、「いきがいのことで不安を感じる」(4.4%)、「住居のことで不安を感じる」(2.6%)の順となっている。また、「特に不安は感じない」(13.2%)は10%を超えている。(図4 - 5 - 1)

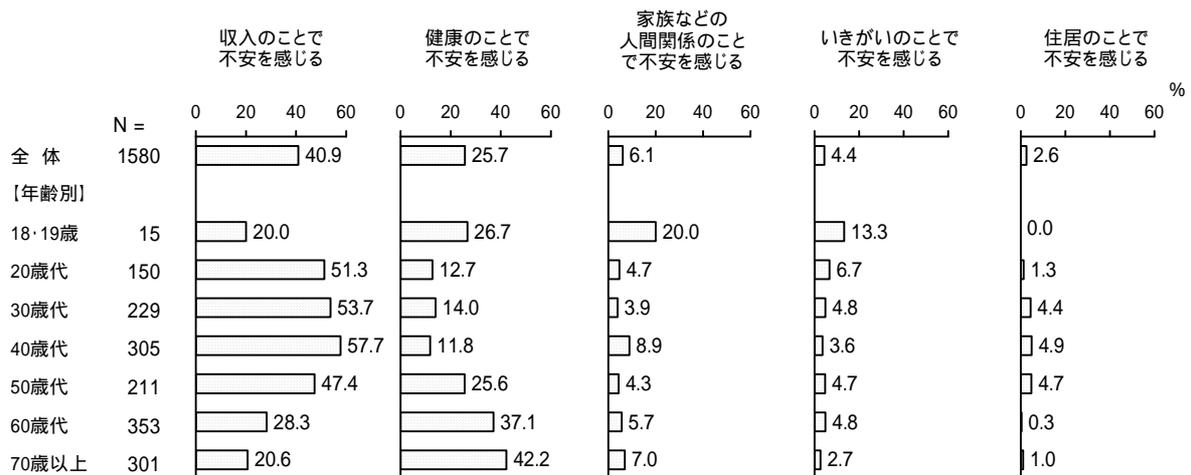
上位4項目を時系列でみると、「特に不安は感じない」は前回調査と比べて3.1ポイント減少している。(図4-5-2)

図4-5-2 時系列 老後の生活への不安



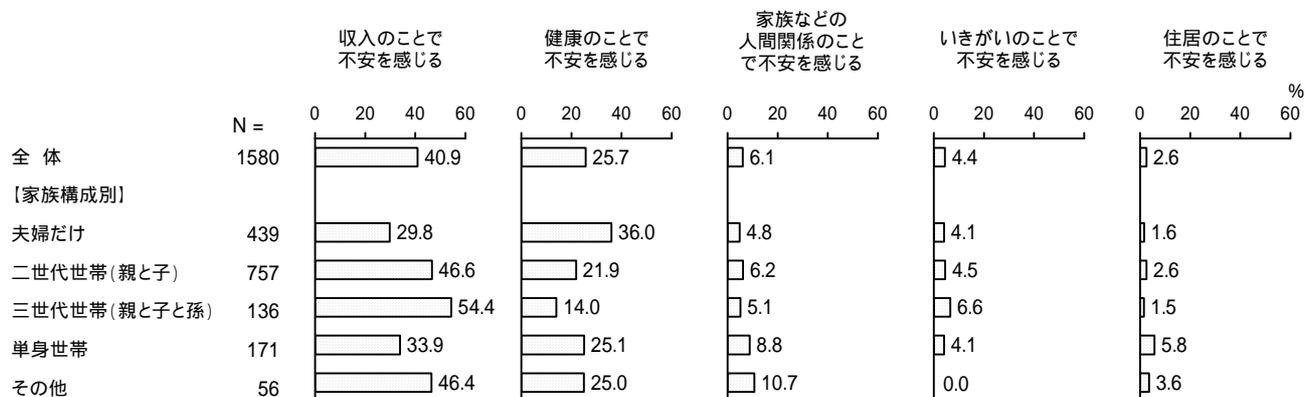
年齢別にみると、「収入のことで不安を感じる」は20歳代から40歳代の年代がいずれも50%台で多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は70歳以上が40%を超え、60歳代が30%後半で多くなっている。(図4-5-3)

図4-5-3 年齢別 老後の生活への不安



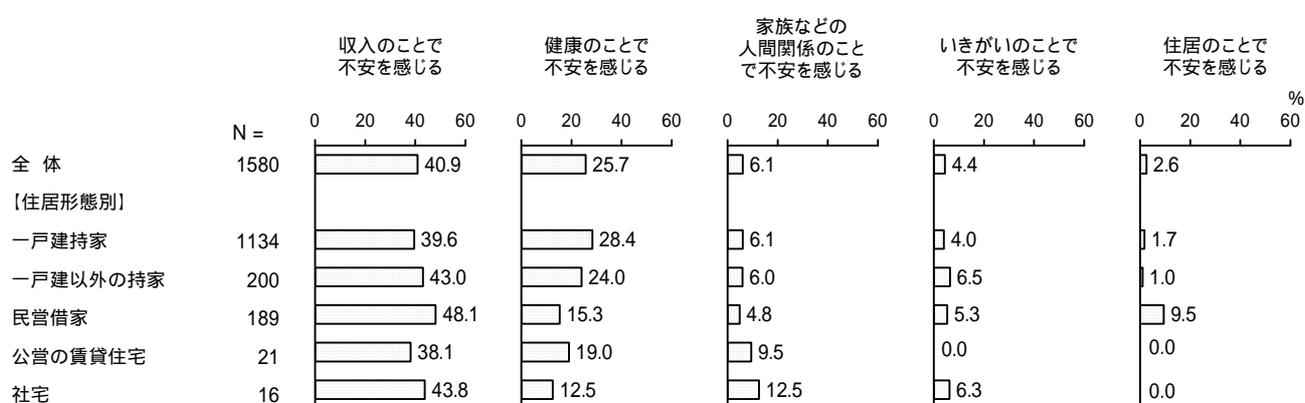
家族構成別にみると、「収入のことで不安を感じる」は三世代世帯（親と子と孫）が 50% 半ばで多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は夫婦だけの世帯が 30% 半ばで多くなっている。（図 4 - 5 - 4）

図 4 - 5 - 4 家族構成別 老後の生活への不安



住居形態別にみると、「収入のことで不安を感じる」は民営借家が 50% 近くで多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は一戸建持家が 30% 近くで多くなっている。（図 4 - 5 - 5）

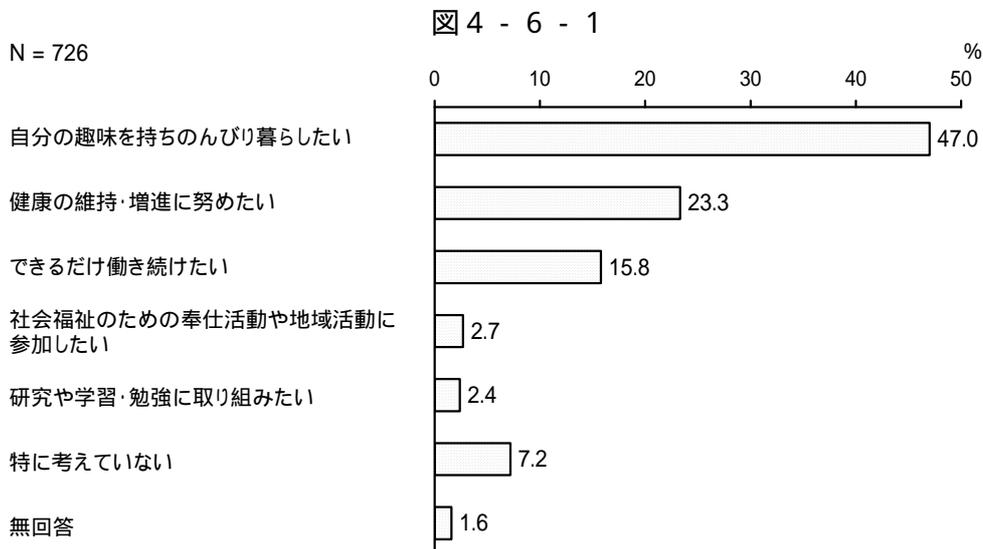
図 4 - 5 - 5 住居形態別 老後の生活への不安



4 - 6 老後の過ごし方

「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」が47.0%

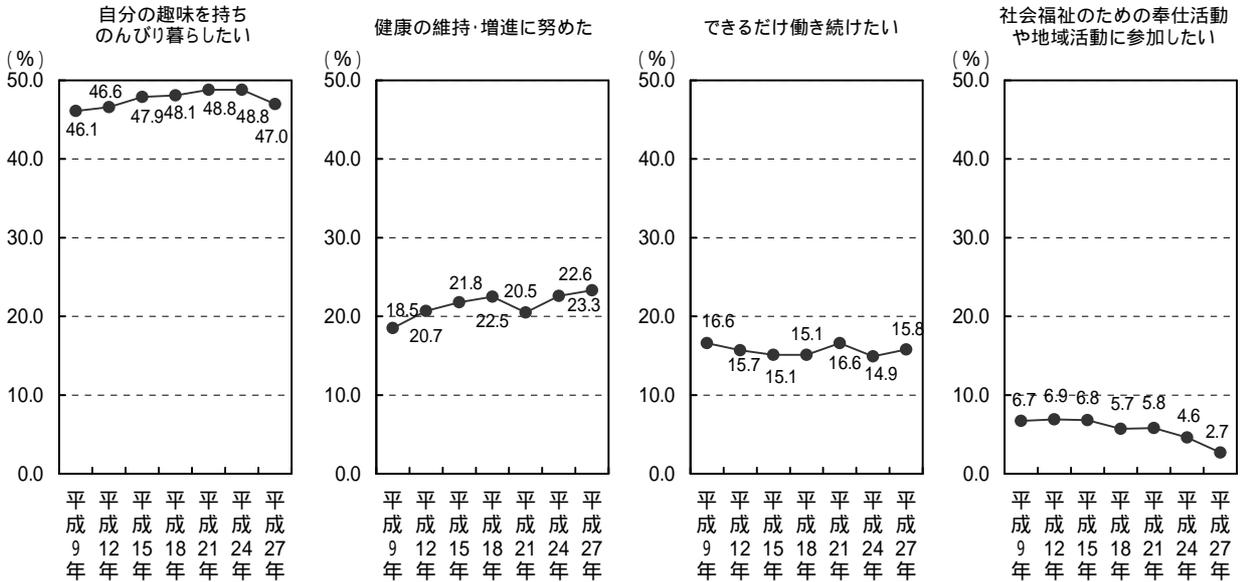
問 21 あなたは、老後の過ごし方についてどのようにお考えですか。自分の考えに近いものを次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)



老後の過ごし方をたずねたところ、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」(47.0%)が最も多く、50%近くとなっている。以下、「健康の維持・増進に努めたい」(23.3%)、「できるだけ働き続けたい」(15.8%)、「特に考えていない」(7.2%)などの順となっている。(図4 - 6 - 1)

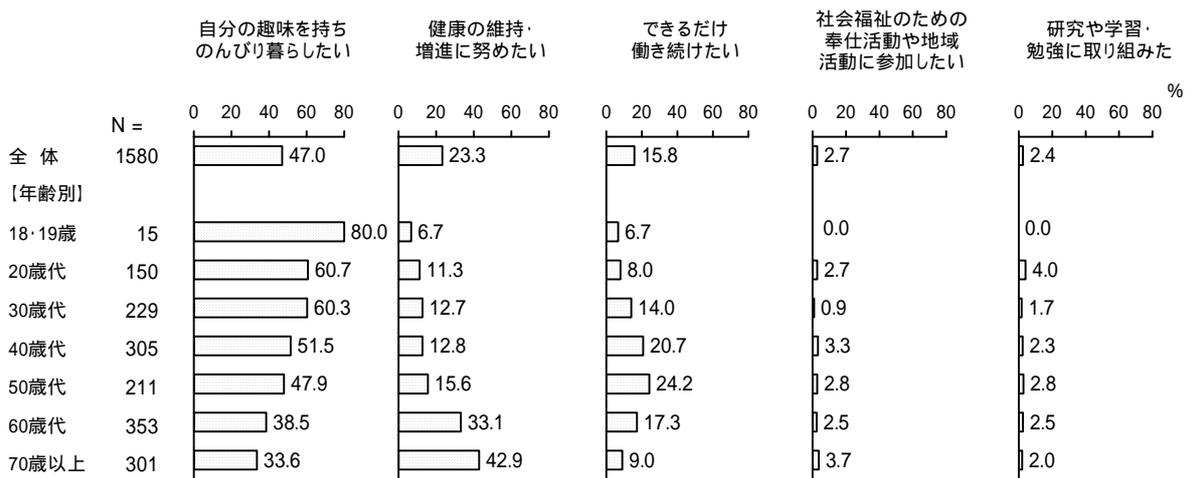
上位4項目を時系列で見ると、過去の調査とほぼ同じ傾向となっている。(図4-6-2)

図4-6-2 時系列 老後の過ごし方



年齢別にみると、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」は低い年代ほど割合が高くなっている。「健康の維持・増進に努めたい」は高い年代ほど割合が高くなっており、特に70歳以上が40%を超えている。(図4-6-3)

図4-6-3 時系列 老後の過ごし方

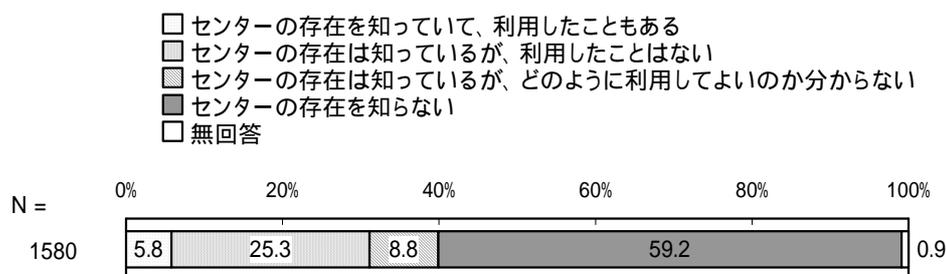


4 - 7 地域包括支援センターの認知度、利用状況

「センターの存在を知らない」が59.2%

問22 高齢者の総合的な相談窓口として設置している、「地域包括支援センター」をご存知ですか。また、同センターを利用（相談）したことがありますか。（ は1つ）

図4 - 7 - 1



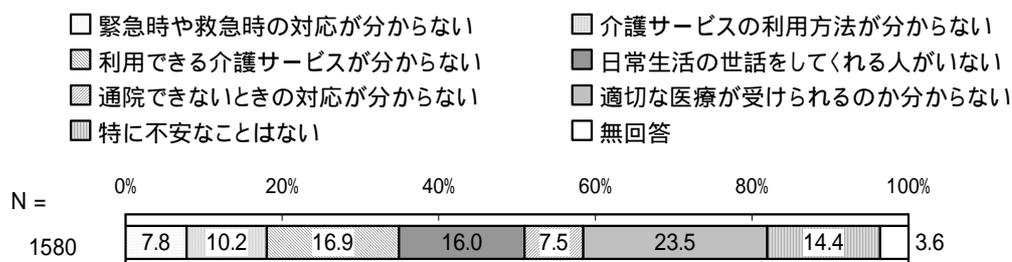
地域包括支援センターの認知度、利用状況をたずねたところ、「センターの存在を知らない」（59.2%）の割合が最も高く、60%近くになっている。「センターの存在は知っているが、利用したことはない」（25.3%）、「センターの存在は知っているが、どのように利用してよいのか分からない」（8.8%）、「センターの存在を知っていて、利用したこともある」（5.8%）をあわせた“センターの存在を知っている”人（39.9%）は40%近くとなっている。（図4 - 7 - 1）

4 - 8 療養生活への不安

「適切な医療が受けられるのか分からない」が23.5%

問 23 あなたが自宅で療養生活を送ることになった場合に不安に思うことは何ですか。
次の中から最も近いものを1つだけ選んでください。(は1つ)

図 4 - 8 - 1



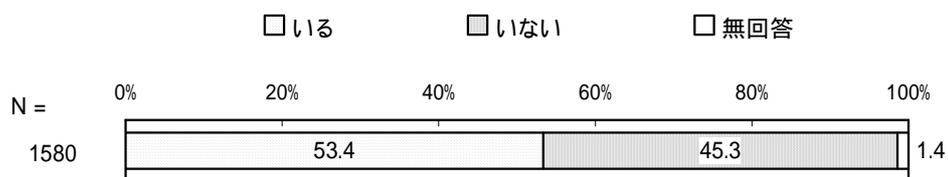
療養生活への不安をたずねたところ、「適切な医療が受けられるのか分からない」(23.5%)が最も高く、20%を超えている。以下、「利用できる介護サービスが分からない」(16.9%)、「日常生活の世話をしてくれる人がいない」(16.0%)、「特に不安なことはない」(14.4%)、「介護サービスの利用方法が分からない」(10.2%)、「緊急時や救急時の対応が分からない」(7.8%)、「通院できないときの対応が分からない」(7.5%)の順となっている。(図4 - 8 - 1)

4 - 9 かかりつけ医のいる家族の有無

「いる」が53.4%

問 24 あなたやご家族の中で、病気になったときに決まって診察を受ける医師（かかりつけ医）がいる方はいますか。（ は1つ）

図 4 - 9 - 1



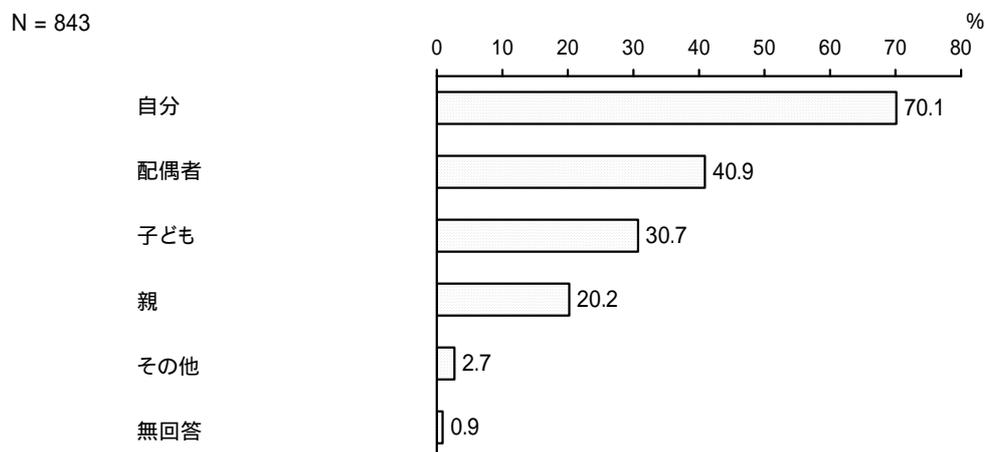
かかりつけ医のいる家族の有無についてたずねたところ、かかりつけ医が「いる」(53.4%)が50%を超えて高くなっている。(図4-9-1)

4 - 10 かかりつけ医のいる家族

「自分」が70.1%

で「1. いる」と答えた方におたずねします。「かかりつけ医」がいる方は、どなたですか。(はいくつでも)

図 4 - 10 - 1



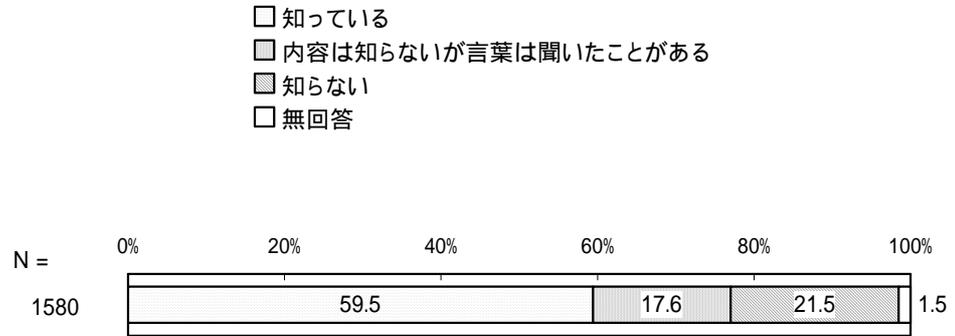
問 24 で「いる」と答えた人(843人)に、かかりつけ医がいる家族についてたずねたところ、「自分」(70.1%)が最も多く、約70%となっている。以下、「配偶者」(40.9%)、「子ども」(30.7%)、「親」(20.2%)などの順となっている。(図4-10-1)

4 - 11 特定健康診査の認知度

「知っている」が59.5%

問 25 あなたは「特定健康診査」を知っていますか。(は1つ)

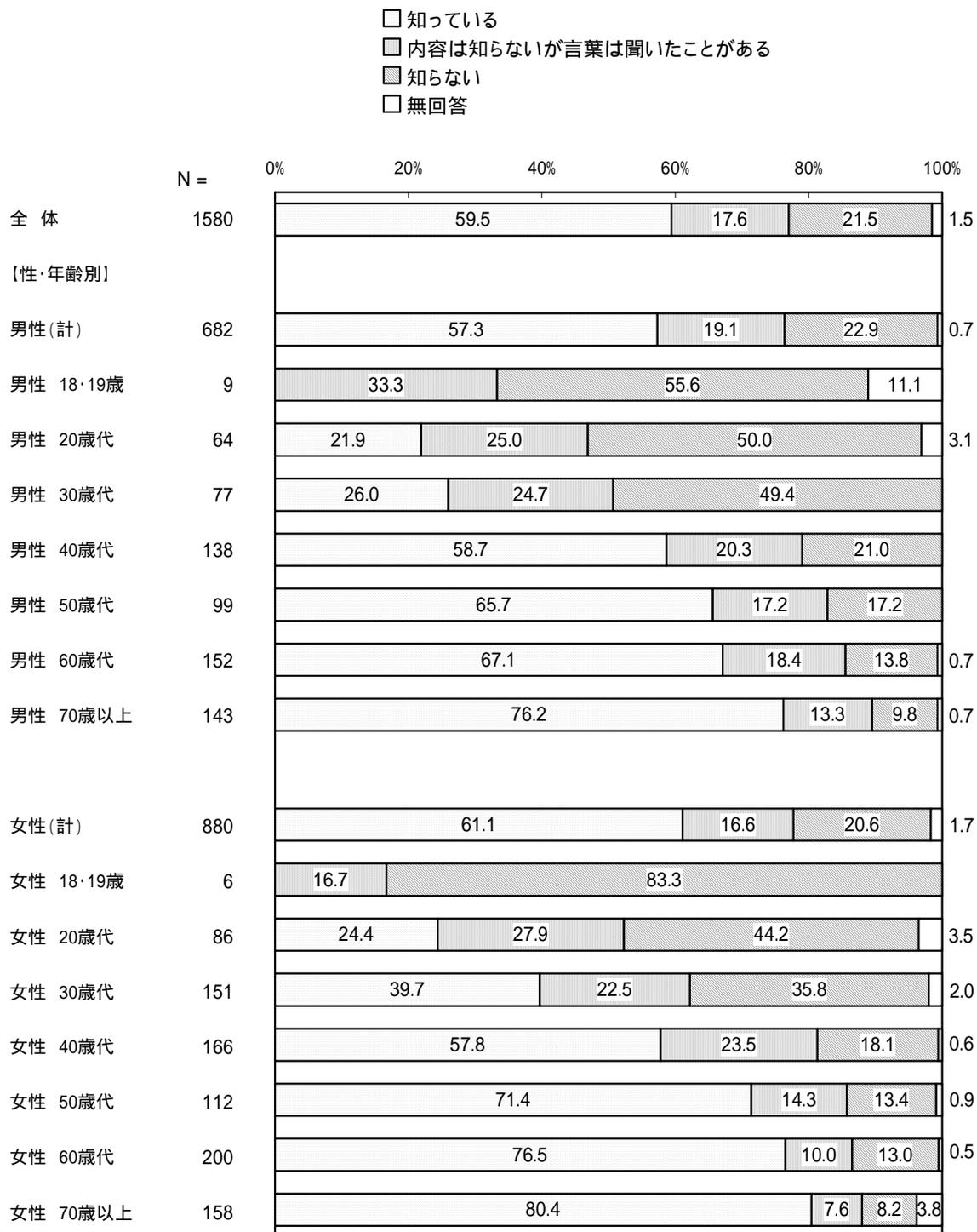
図 4 - 11 - 1



特定健康診査を知っているかたずねたところ、「知っている」(59.5%)が最も多く、60%近くとなっている。「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」(17.6%)、「知らない」(21.5%)はともに20%前後となっている。(図4 - 11 - 1)

性・年齢別にみると、男女とも年代が高くなるにつれ「知っている」割合が多くなる傾向がみられる。(図4-11-2)

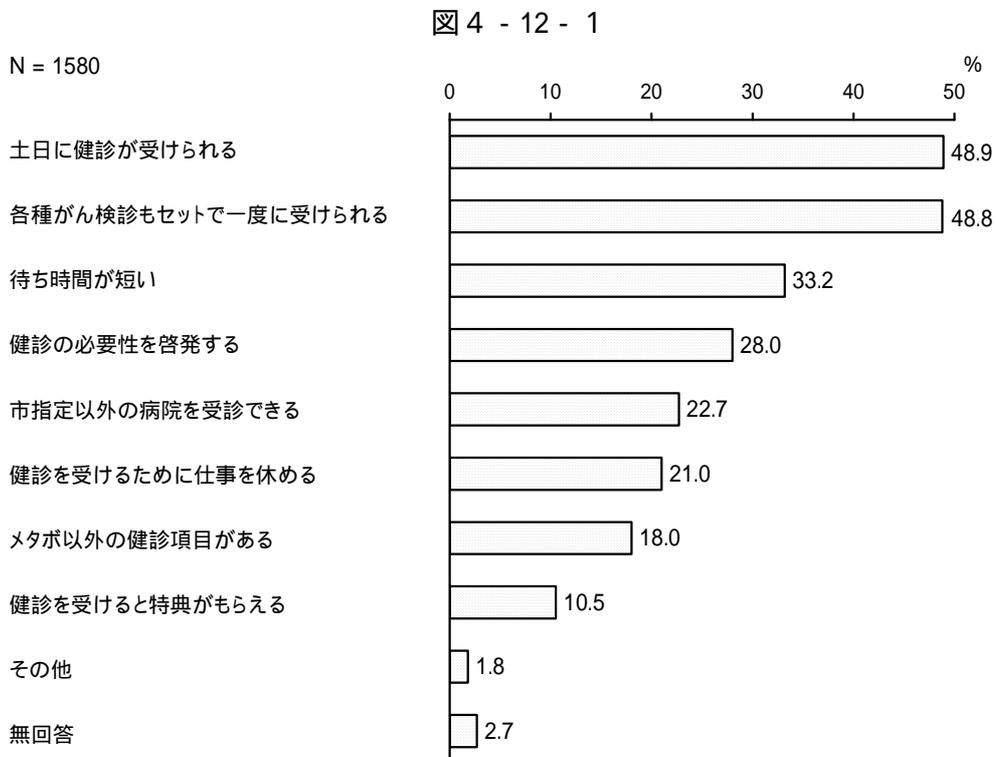
図4-11-2



4 - 12 特定健康診査の受診率向上のための取組

「土日に健診が受けられる」が48.9%、「各種がん検診もセットで一度に受けられる」が48.8%

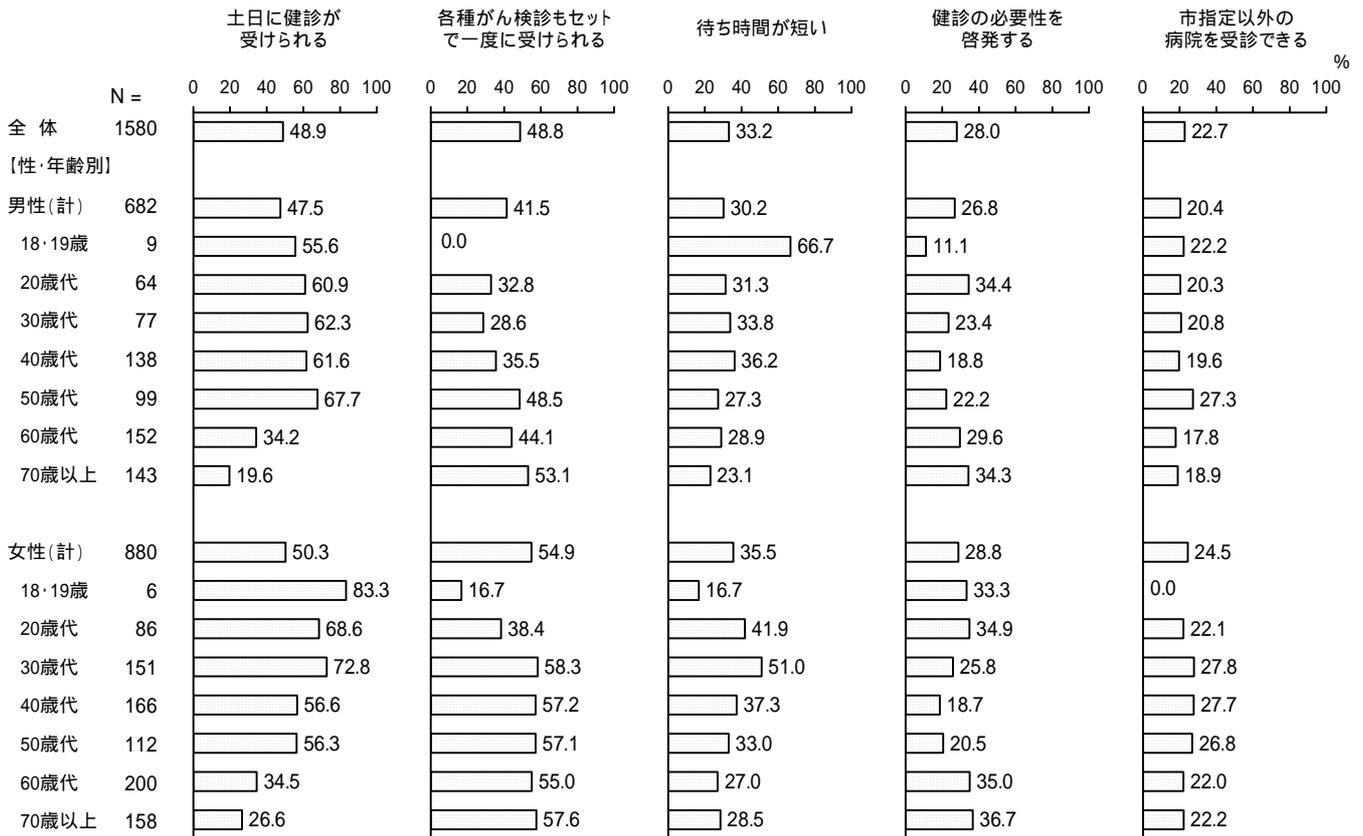
問 26 多くの方に特定健康診査を受けてもらうために、どのようにすべきだと思いますか。(はいいくつでも)



特定健康診査の受診率向上のための取組をたずねたところ、「土日に健診が受けられる」(48.9%)と「各種がん検診もセットで一度に受けられる」(48.8%)が多く、ともに50%近くとなっている。以下、「待ち時間が短い」(33.2%)、「健診の必要性を啓発する」(28.0%)、「市指定以外の病院を受診できる」(22.7%)などの順となっている。(図4-12-1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「土日に健診が受けられる」は女性の20歳代、30歳代が70%近くで多くなっている。「各種がん検診もセットで一度に受けられる」は女性30歳代から50歳代の年代のいずれもが60%近くで多くなっている。「待ち時間が短い」は女性30歳代で50%を超えて多くなっている。(図4-12-2)

図4-12-2



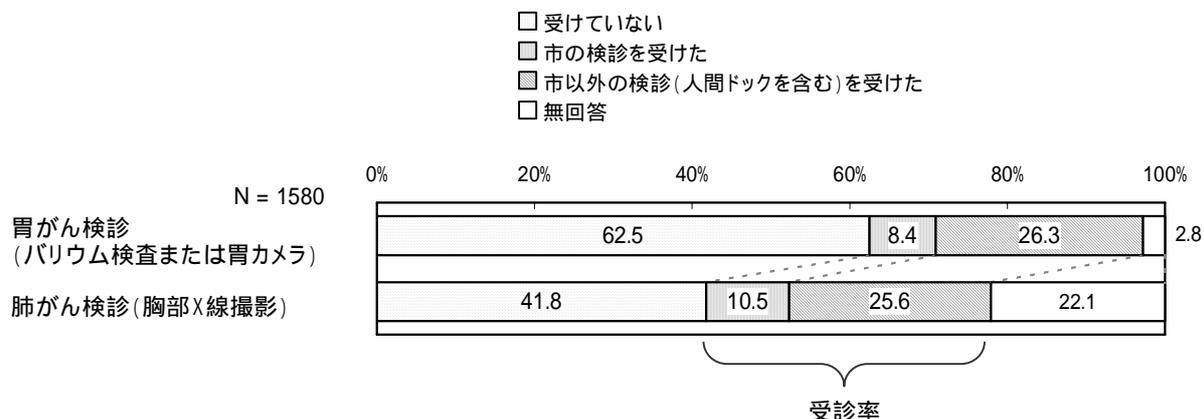
4 - 13 がん検診の受診状況

40歳以上の<受診率>は、胃がん検診が41.8%、肺がん検診が41.2%

問 27 がん検診の受診状況についてお尋ねします。

平成26年4月1日～平成27年3月31日に次の検診を受けたことがありますか。

図 4 - 13 - 1

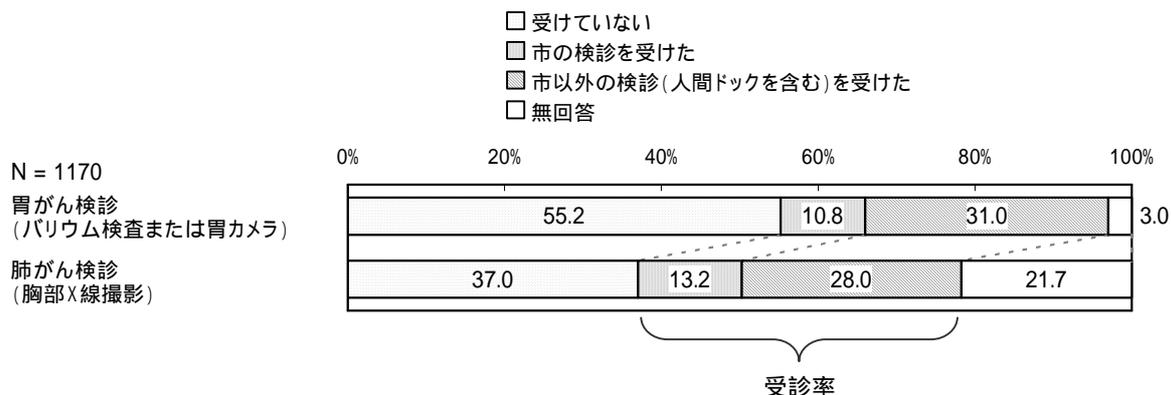


がん検診の受診状況をたずねたところ、「市の検診を受けた」と「市以外の検診(人間ドックを含む)を受けた」の2つを合わせた<受診率>は、胃がん検診(バリウム検査または胃カメラ)(34.7%)、肺がん検診(胸部X線撮影)(36.1%)ともに30%半ばとなっている。

(図4 - 13 - 1)

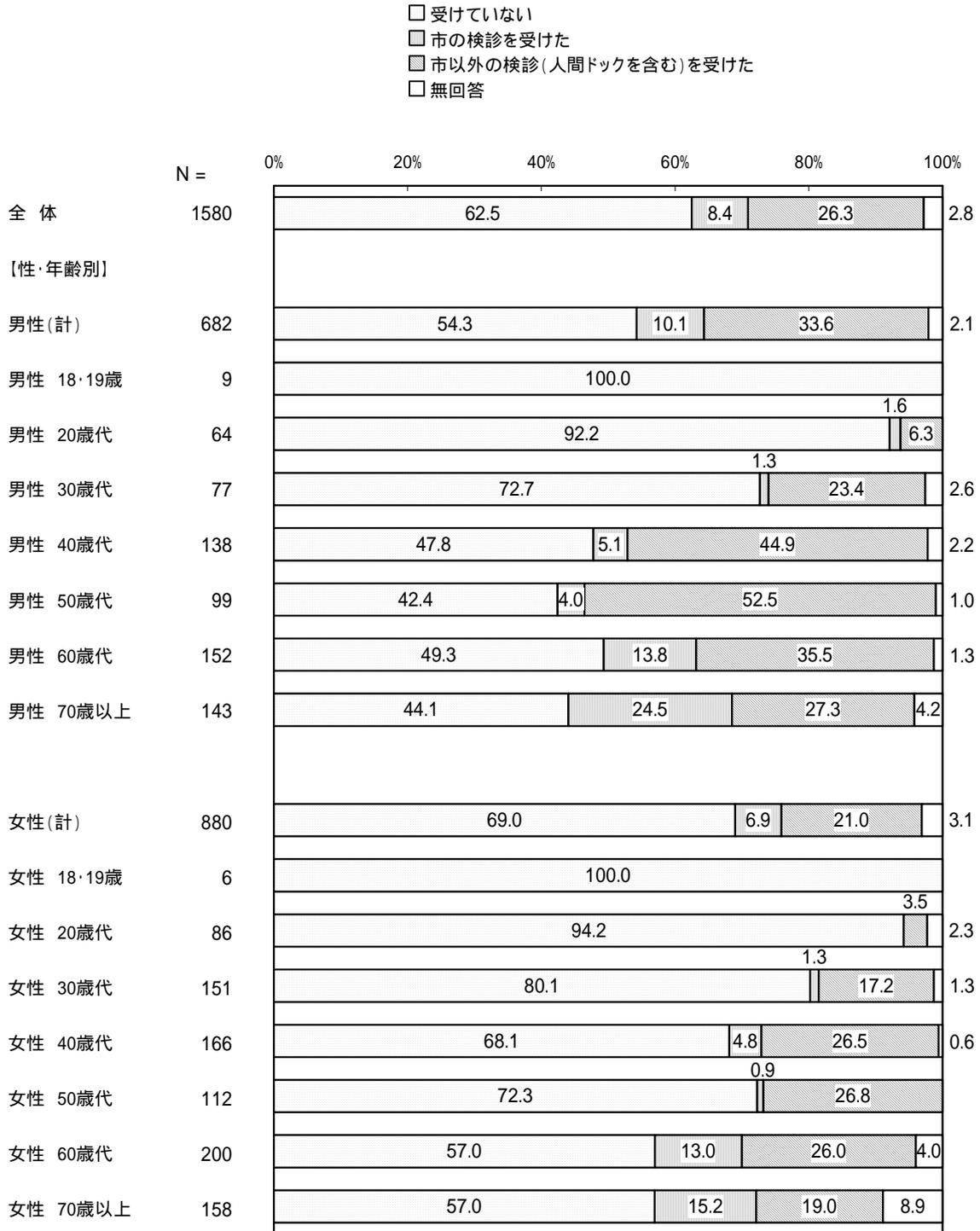
市のがん検診の対象年齢である40歳以上(1,170人)の<受診率>は、胃がん検診(バリウム検査または胃カメラ)(41.8%)、肺がん検診(胸部X線撮影)(41.2%)ともに40%を超えている。(図4 - 13 - 2)

図 4 - 13 - 2 40歳以上の方のがん検診の受診状況



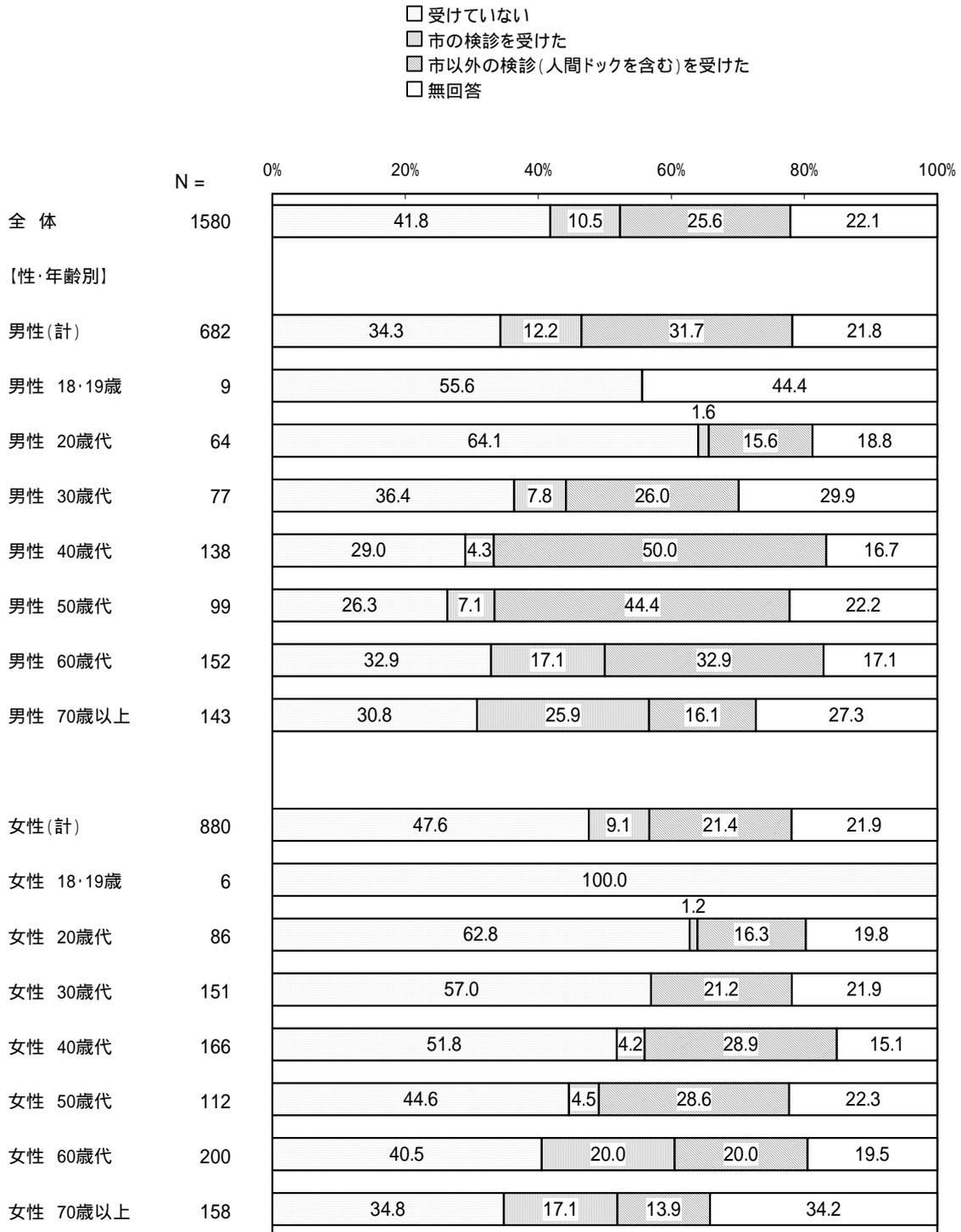
胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）について性・年齢別にみると、「市の検診を受けた」と「市以外の検診（人間ドックを含む）を受けた」の2つを合わせた<受診率>は、男性では、50歳代が60%近くで最も多く、40歳代、60歳代、70歳以上でも50%前後となっている。女性では、60歳代が40%近くで最も多く、40歳代、50歳代、70歳以上でも30%前後となっている。（図4-13-3）

図4-13-3 性・年齢別 胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）の受診状況



肺がん検診（胸部X線撮影）について性・年齢別にみると、「市の検診を受けた」と「市以外の検診（人間ドックを含む）を受けた」の2つを合わせた＜受診率＞は、男性では、40歳代から60歳代のいずれの年代も50%以上と多くなっている。女性では、60歳代が40%で多くなっている。（図4-13-4）

図4-13-4 性・年齢別 肺がん検診（胸部X線撮影）の受診状況

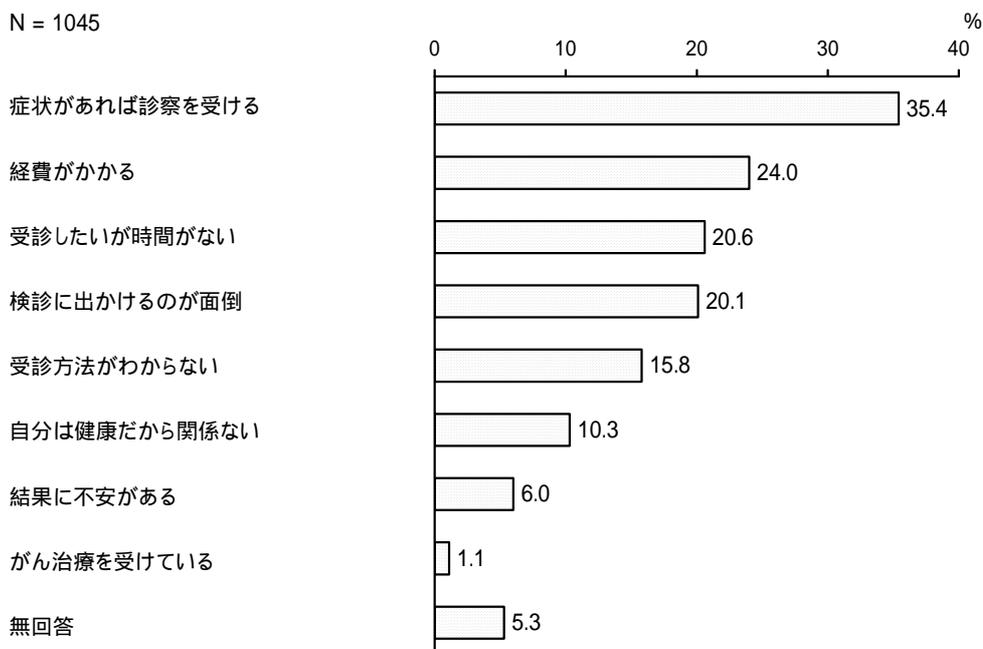


4 - 14 がん検診を受診していない理由

「症状があれば診察を受ける」が 35.4%

で「1. 受けていない」と答えた方におたずねします。がん検診を受診しない理由は何ですか。(はいくつでも)

図 4 - 14 - 1

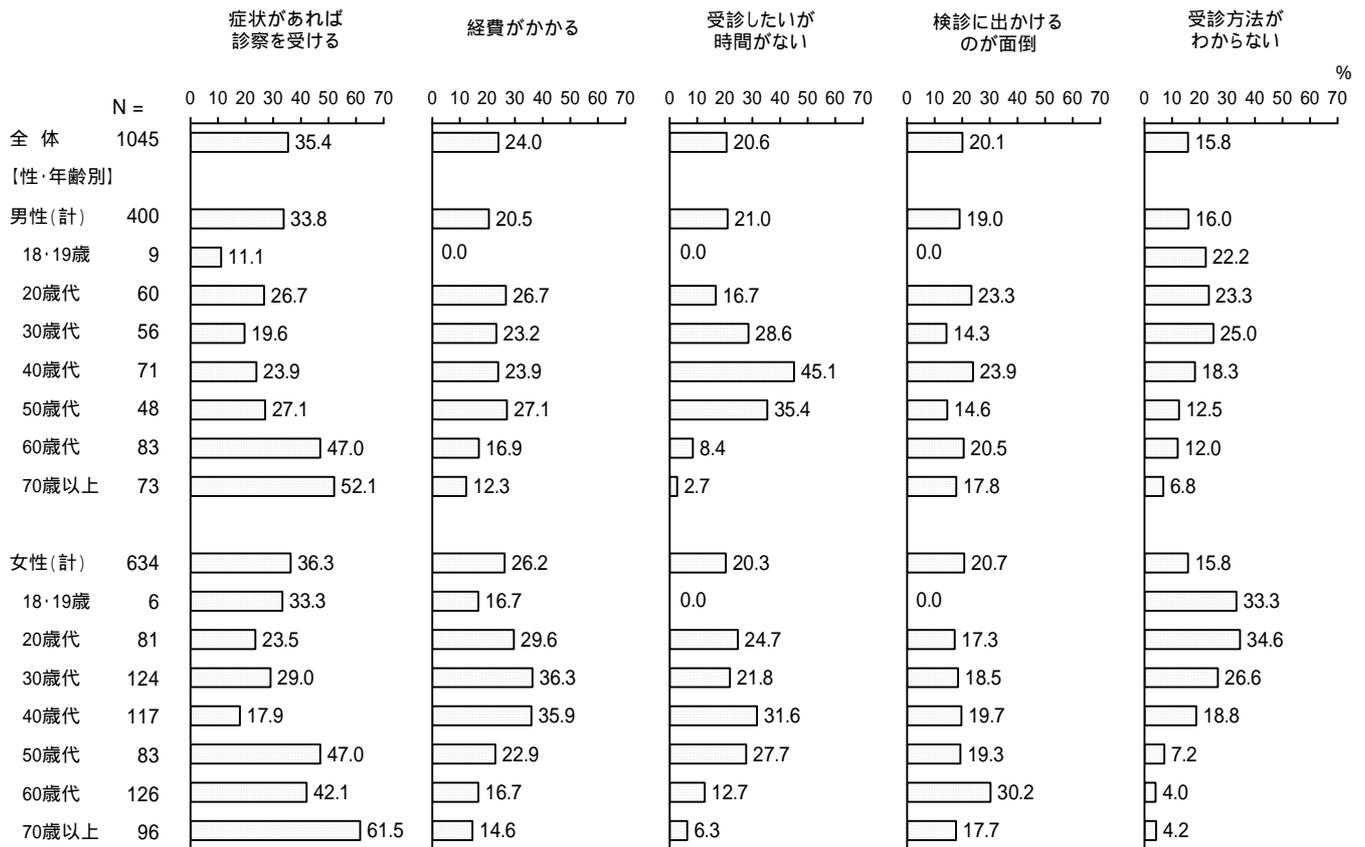


問 27 で胃がん検診・肺がん検診いずれかで「受けていない」と答えた人(1,045人)に、その理由をたずねたところ、「症状があれば診察を受ける」(35.4%)が最も多く、30%を超えている。以下、「経費がかかる」(24.0%)、「受診したいが時間がない」(20.6%)、「検診に出かけるのが面倒」(20.1%)、「受診方法がわからない」(15.8%)などの順となっている。

(図 4 - 14 - 1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「症状があれば診察を受ける」は男性70歳以上が50%を超えて多く、女性70歳以上が60%を超えて多くなっている。「経費がかかる」は女性30歳代、40歳代がともに30%半ばで多くなっている。「受診したいが時間がない」は男性40歳代が40%半ばで多く、「検診に出かけるのが面倒」は女性60歳代が約30%と多くなっている。「受診方法がわからない」は女性20歳代で30%を超えて多くなっている。(図4-14-2)

図4-14-2

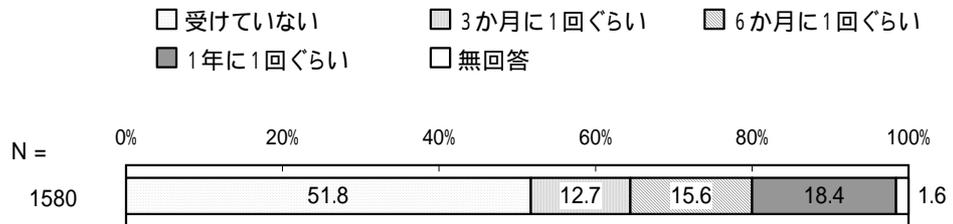


4 - 15 定期的な歯科健診の受診状況

「受けていない」が51.8%

問 28 あなたは、定期的に歯科健診を受けていますか。(は1つ)

図 4 - 15 - 1



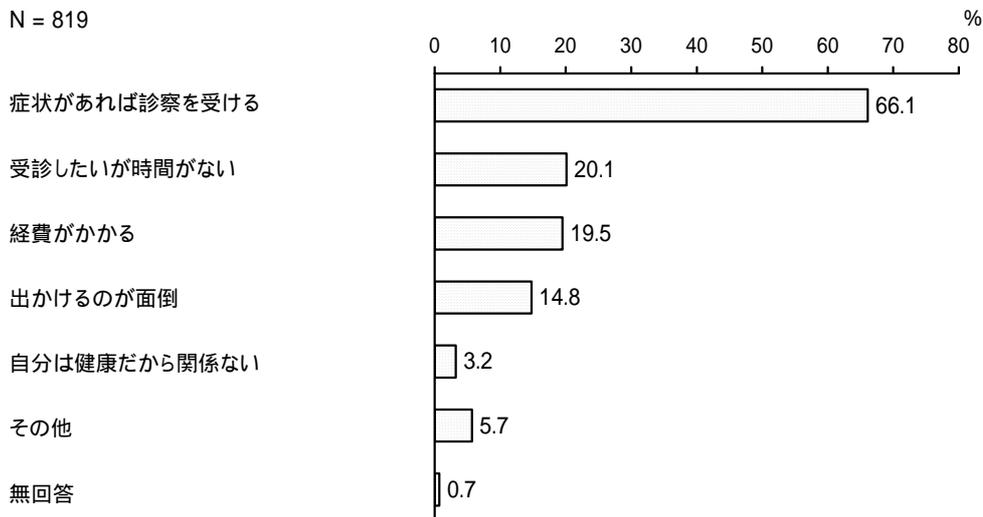
定期的な歯科健診の受診状況をたずねたところ、「受けていない」(51.8%)が50%を超えて最も多く、以下、「1年に1回ぐらい」(18.4%)、「6か月に1回ぐらい」(15.6%)、「3か月に1回ぐらい」(12.7%)の順となっている。(図4 - 15 - 1)

4 - 16 歯科健診を受診しない理由

「症状があれば診察を受ける」が 66.1%

で「1. 受けていない」と答えた方におたずねします。
歯科健診を受診しない理由は何ですか。(はいくつでも)

図 4 - 16 - 1



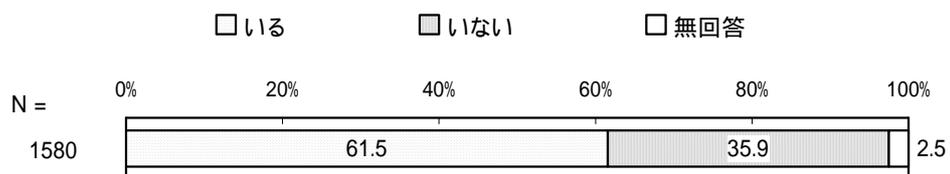
問 28 で「受けていない」と答えた人(819人)に、歯科健診を受診しない理由をたずねたところ、「症状があれば診察を受ける」(66.1%)が70%近くと最も多くなっている。以下、「受診したいが時間がない」(20.1%)、「経費がかかる」(19.5%)、「出かけるのが面倒」(14.8%)などの順となっている。(図4-16-1)

4 - 17 かかりつけ歯科医の有無

「いる」が61.5%

あなたは、定期的に歯の治療や相談、健診などを受ける歯科医師(かかりつけ歯科医)がいますか。(は1つ)

図 4 - 17 - 1



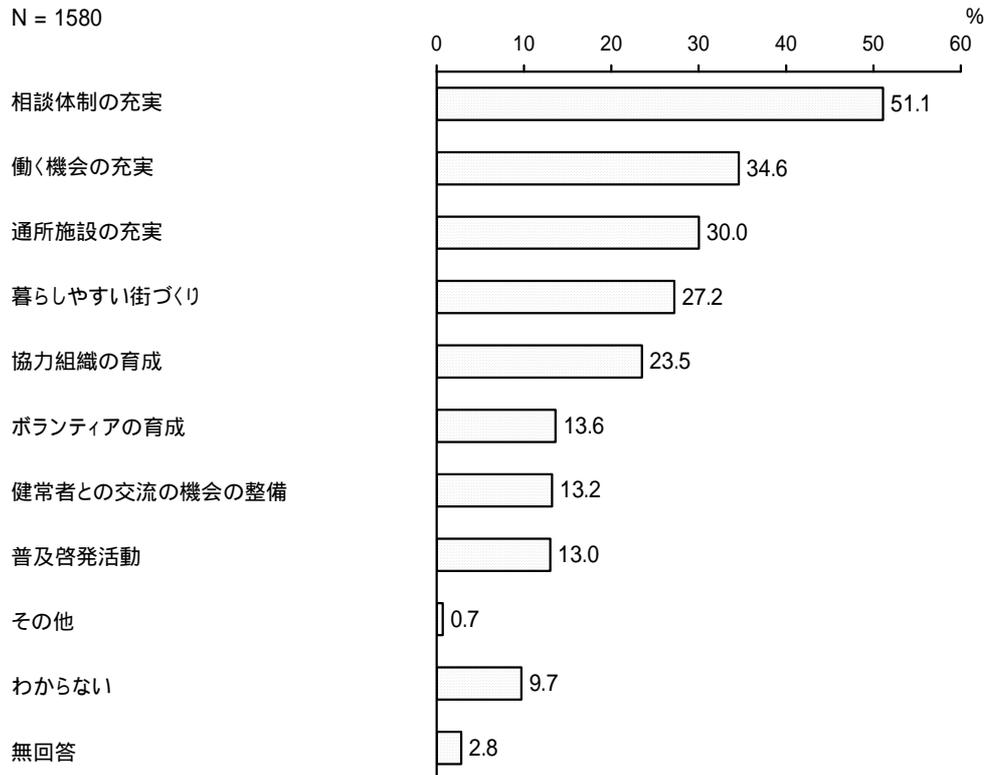
かかりつけ歯科医の有無をたずねたところ、「いる」(61.5%)が60%を超えて多くなっている。(図4-17-1)

4 - 18 精神障害者のために充実すべきこと

「相談体制の充実」が51.1%

問 29 精神に障害がある方のために特に充実していく必要があると思われるものは何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

図 4 - 18 - 1

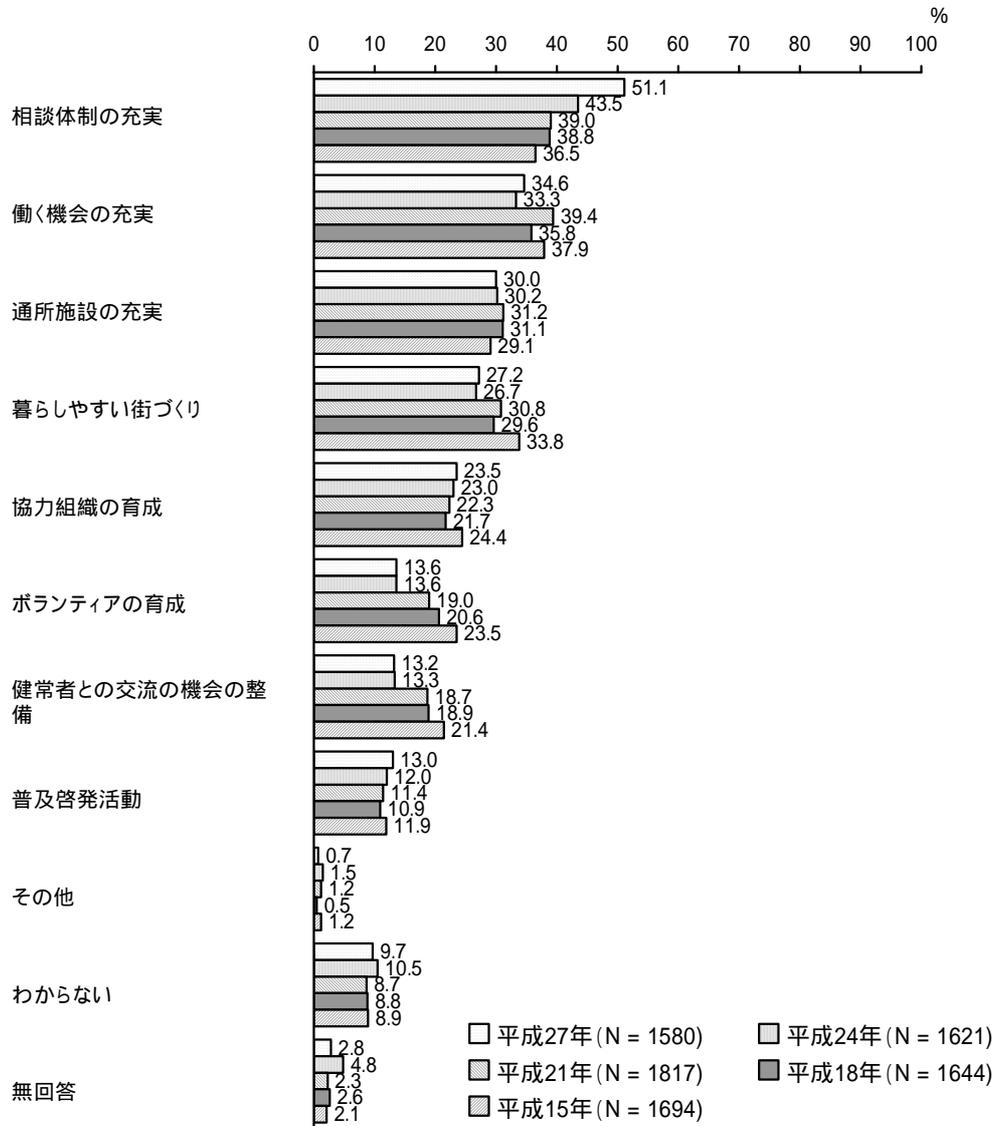


精神障害者のために充実すべきことをたずねたところ、「相談体制の充実」(51.1%)が最も多く、50%を超えている。以下、「働く機会の充実」(34.6%)、「通所施設の充実」(30.0%)、「暮らしやすい街づくり」(27.2%)、「協力組織の育成」(23.5%)などの順となっている。

(図 4 - 18 - 1)

時系列でみると、「相談体制の充実」は増加傾向にあり、前回調査と比べて 7.6 ポイント増加している。(図 4 - 18 - 2)

図 4 - 18 - 2 時系列 精神障害者のために充実すべきこと



上位5項目を年齢別にみると、「相談体制の充実」は50歳代、60歳代がどちらも60%近くで多くなっている。「働く機会の充実」はおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にある。「通所施設の充実」は50歳代が40%近くで多くなっている。(図4-18-3)

図4-18-3 年齢別 精神障害者のために充実すべきこと

